

2015年の初演以来、各地で観客を感動の渦に巻き込み、全国公演中!

「原爆くを絵であらわすなんて、すごいと思いました。」

『平和』とはなんだろう、ということを考えられました。』(12才)

「戦争をなかったことにするのではなく、ありのままを受け入れ、
次につないでいく大切さを学べた。」(中学3年生)

「世代を超えて記憶に伝える作品。今こそ、若者に伝えたい内容でした。」(70代)

被団協の機関紙で、初めて広島市立基町高校創造表現科の生徒による「原爆の絵」を見た時は、「被爆者の描いた絵?」と思いました。それほど迫力に満ちた絵でした。どうしてこのような絵が描けるのか、というのが取材を始めるきっかけでした。その後現地へ何度も伺う中で知ったのは、半年をかけて



(舞台写真)
撮影:V-WAVE

被爆者から被爆前後の経験とその後の人生まで丹念に話を聞き、現場へ足を運び、資料を調べ、繰り返し被爆者と話し合い、時には涙しながら、悪夢を見ながら、「被爆者の手になって絵を描こう」と真摯に向き合う高校生たちの姿でした。彼らは「原爆の怖さ」でなく「原爆の記憶が消えていくことの怖さ」を心に刻みながら絵を描いていたのです。

記憶を語り継ぐ—その輪の中に、皆様とともに加われたらと願っています。／福山啓子

(ふくやまけいこ)

東京都生まれ。早稲田大学第一文学部卒。1980年入団。文芸演出部所属。

2006年初演の「博士の愛した数式」で脚本・演出を担当、児童福祉文化賞(厚生労働大臣賞)を受賞。他に「野球部員、舞台に立つ!」(脚本・演出)、「田畑家の行方」(演出)、「梅子とよっちゃん」(脚本)、「深い森のほとり」(作・演出)、「囲まれた文殊さん」(脚本)。



藤井美恵子



広戸聡



永田江里



藤代梓



傍島ひとみ



津曲海七斗

【あらすじ】
被爆者を祖父母に持つ高校二年の恵は、美術部員。被爆証言を絵にする活動に応募することにした。初めて目の前で、少人数で聞く被爆者の証言は、「体験」として胸に迫った。はじめは乗り気でなかった部員たちも証言を聞いて変わっていく。ぶつかりあい、はげまし合いながら、見たこともないものを描くための作業が始まった…。

あの夏の絵

福山啓子 作・演出

CAST



秋田雨雀・土方与志 記念

青年劇場

〒160-0022 東京都新宿区新宿2-9-20 関川ビル4F
TEL 03(3352)6922 FAX 03(3352)9418



info@seinengekijo.co.jp



https://www.seinengekijo.co.jp

戦後80年 世田谷区 平和都市宣言40年 せたがや未来の平和館 10周年記念 演劇上演会

日時

令和7年 7月20日(日)

開場13:30 / 開演14:00(上演時間2時間・休憩15分)

場所

北沢タウンホール

世田谷区北沢2-8-18

参加費

無料



申し込み方法

対象:区内在住、在学の方優先

申込:せたがやコール(年中無休)電話03-5432-3333(午前8時~午後9時)、
FAX03-5432-3100(24時間) または オンライン手続き(右記二次元コード)

申込6月16日~6月30日 抽選250名 ※抽選結果は当選の方に7月7日発送で通知



申込フォーム

ひととき保育有 申込期間:6月16日~7月4日(せたがやコールへ/先着)